

健康生きがづくり・とちぎ

<http://www.tochigi-kenkou-ikigai.com>

～第13号～
 栃木県健康生きがづくり協議会
 平成23年7月15日 発行
 発行責任者 森山 京逸
 編集責任者 藤田 三夫
 事務局(長尾) ☎0287-37-3431

平成二十三年度の活動方針



会長 森山 京逸

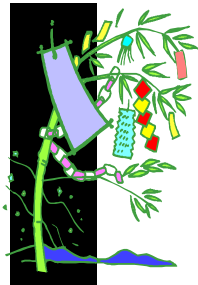
本年度は、この東日本大震災の復興・支援に当協議会も可能な限りの協力が出来るような事業活動を推進したいと考えています。そして財団及び各地協議会と情報交換や連携を密にしなが、当協議会の目的達成とその実現のために、会員の皆様と一緒に努めたいと思っています。

新入会員も加わり、新部会長による組織体制も整いました。各部会の活動計画が、魅力ある活動内容として着実に実行されますよう期待致します。

また、会員相互の親睦を図り、健康生きがづくりを積極的に行動したいと考えています。

会員の皆様には健康に留意され、栃木県健康生きがづくり協議会の事業活動に一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

*副会長に黒宮ヤヨイ氏、田部井一男氏の二名が 就任されました。何卒宜しくお願い致します。



地域活動事例紹介

音楽活動を通して



金田 昌枝

人生において、やり残したことなど、自己決定することの問題など、死ぬよりつらいことがあるその時期に、音楽をベースに会話が生まれ、コミュニケーションの深まりより、「生きるとは」を理解し、共感し共に分かちあうことができました。これまでの活動を通して、自分をより深く知り、又そこから希望を見出し歩んできました。音楽を使った、心理療法からの贈り物であり、音・音楽を「薬」として処方することができるといふことです。

東日本大震災支援活動



黒宮 ヤヨイ

このたびの震災に際し、私たちは現地で支援活動をしている宮城県大崎市に拠点のある「さんりん福祉会」より、春物の衣類や下着、衛生用品を届けてほしいと要請がありました。

そのため「ここにクラブ」の会員やさくら市喜連川の社会福祉協議会ほかのご協力をいただき、新しい下着や、会員には、まだまだ自分で着たいという春物の洋服を、提供していただきました。

健康生きがづくりアドバイザー 養成講座受講者募集

栃木県健康生きがづくり協議会では、次の通り平成二十三年度養成講座を開催致します。

◇ 日程
十月八日(土)から十一月十二日まで全5回
会場 宇都宮市駒生町
とちぎ健康の森

◇ 定員 二十名
受講料 三万円
他に資格認定研修会へ参加(参加費二万円)して試験に合格することが必要です。

◇ 資格登録には別途登録料一万円が必要で、申込・問合わせ先 九月十五日までに当協議会事務局まで電話・FAX・E・メールでご連絡下さい。連絡下さった方へ申込書を別途送付します。

さくら市文化振興事業 企画募集に応募しました
 これは「ドリームプロジェクト」として自分たちの手でライブイベント等を企画してみませんか?という、さくら市市民ならだれでも応募できるものです。そこで例年行っている池田敏美さんのコンサートをもう少し拡大、「音の花かご」コンサートとしての企画を提案したものです。結果は8月末に発表になる予定です。みなさん楽しみにお待ちください。



生きるよろこびを感じ、見出したこと、今あることに感謝を持つことができると、対象になる方々の「からだ」と「こころ」へのアプローチは長寿の時代を迎え、多くの方々に啓蒙を考えると、活動してまいります。

高年齢者福祉施設・病院内緩和ケア等へ入所あるいは入院生活を送っている人々、又デイケアに通所される方々いずれも、人生終末期を迎えようとしています。ひととして心豊かに、より自分らしくありたい・・・と願われています。

副会長就任のご挨拶



田部井 一男

今年の三月に「順番なので引き受けて下さい」と、三つの役員を引き受けました。何れも一年から二年の任期のもので

す。そして、今回の栃木健生の副会長を担当する事により四つ目となりました。私にとつては荷の重い役割ですので、本来は余裕のある中で引き受けて取り組みたかったのですが、やむを得ないことだと思っています。

今までは、県北の方々の持ち味を生かした強力な取り組みにより栃木健生がうまく回ってきたことに感心していましたが、いつまでも甘えてばかりはいられません。私自身、力不足ありますが、先輩方の指導・支援を頂いて、少しでも成果に繋がるように努力をしていきたいと思っています。一方では、会合に出てこれられる人が固定化していますが、これらの人との出会いを大切にしながら栃木健生の一翼を担う所存であります。

理事就任のご挨拶



武田 裕

自分の運命とは、人生を悔いのないものとする力であり、それが生きる楽しさを引出します。生きる楽しさが、いきがいが円満な人間関係を作って、人に役立ってこそ味わえるものです。自分でつくるものです。



支援品を選ぶ被災者の皆さん

して、子どもたちのジャージや下着、夏物と何回か物資をお届けしました。今回は喜連川中学校の生徒会が学用品をたくさん集めてくれました。その都度、池田さんがコンサートを開いてくださり、皆さんとてもこころが癒されると、涙を流して喜んでくださっていました。池田さんの活動も、さんりん福祉会の支援にも本当に頭が下がります。私たちは小さなお手伝いしかできませんが、これからも細く長く続けていきたいと思っています。

編集後記

今年度最初の会報をお届けします。東日本大震災から四か月を経てもなお多くの方が避難生活を余技なくされている状況ですが、一日も早い復興を願っております。当協議会として、定期総会の折、出席者から義捐金を募り、僅かではありますが、支援活動に向かう黒宮副会長に託し被災地へお届けしました。今後の支援活動にも会員各位の協力をお願いします。

今号の主な記事

- 平成23年度を迎えて 森山会長挨拶
- 平成23年度定期総会開催報告
- 新役員就任挨拶 田部井副会長、武田理事
- 健康・生きがい開発財団 大谷常務理事のご寄稿 「ロコチェック」
- 平成23年度健康生きがづくりアドバイザー養成講座開催案内(受講者募集案内)
- 新入会員紹介 高橋武紀さん、福田越子さん
- 各専門部会の今年度の活動計画について 研修部会、事業部会、広報部会
- 地域活動の事例紹介 東日本大震災支援活動 音楽活動を通じた福祉ケア

しかし、自分でつけれないときはどうしますか・・・
 人は誰もが、社会の中に生きています。自分ひとりで生きていくのではありませぬ。生ある誰もが、社会に必要とされた一員です。その必要な存在であるならば、自分でできることで積極的に関わっていくことでしょう。そこに良さが生かされ、本当の生きがい生まれてくるようになります。悪いことには反面教師にもなります。自分が見えて、弱点や長所の性格もみえて、人々の姿も客観的に見られるようになる人間関係が豊かに円満になるような気がします。

会員みなさんの優れたアイデアを大切に受け止め、育てて大きな力になるようなお手伝いをさせていただきます。肩ひじを張らずに気楽にたのしくやりましょう。